

C'est très bon! Vol. 126

～ おいっぴんの通信～

Boulangerie
C'est TRÈS BON
2014. 9. 06
Kaori Onishi

フランスへの旅立ち④

もうすぐフランスへ旅立ちます。今まで全然「実感」がわかなかつたのに、長年住んだ家を手付け、毎日店へ通った車や通勤するまで「フランスに行くんだなあ」と思っていました。だて「フランス」に夢をばき、友人、家族に囲まれていたと別れ前は改めて感じました。お客様のあともうかがい手紙を頂きました。その手紙の中には、このフランスで新たにパンを焼くという新しいことに挑戦する「おいっぴん」の思いが、味がおいしいパンを焼くだけでなく、その中に作り手の思いが込められて食べた人が幸せな気持ちを感じるパンを届けたいというのです。お客様からこうの手紙を頂いたのは、そんなお客様をうれしく思い、パンを毎日焼きたい、一人一人で作るには（スロー）みんなの力を合わせて作るからみんなも喜んでくれる。そのパンを主とする様々な手紙の職場にしたいと日本では思っていました（価値感も国も違う）フランスでできるのは、それが求められているか、思っています。やはり、思いが込められたパン作りは、温かさをまたパンに届ける。それは大切なことだと忘れなようにして、強く思わせて頂きました。あるお客様がわざわざ電話で「おいっぴん」に「おいっぴん」のパンが大好きです。そのパンに感動しています。そして、国は違っても、そのパンが大好きなパンはお客様に、そのパンに届くはずだと。思わず涙がこぼれました... 13人不安はありますが、自分の可能性を信じて、パンを焼いていきたいです。この20年のパン人生もお客様の言葉に支えられてきました。その出会いに感謝します。もう10年以上前お客様から頂いたハガキに書いてあった言葉「この道をおすすめする。そして何かを待っているはず」この言葉はまだ心がゆらぎました。私にだけアドバイスしてくださった... 何度もその言葉に支えられ、今は「おいっぴん」の言葉に支えられています。もう今はこの道に行く決心が固まっているから大丈夫ですが、まだ職人として8年目だった私の足の速いバンの支えでした。人生で起こる偶然は、その時起るべくして起る必然的なことではないかと今は強くそう思っています。

旅立ちの前にたまたまさんがお祝いしてくれました。神戸・大阪の江戸流の人の方が集まると、大阪で土行会をしてくださいました。2度目の結婚式でお祝いくださる。昔は私にだけお祝いしてあり、話もできてきた。この有名な江戸流の皆様から言葉を頂きました。花束も送って頂きました。フランスに幸せ者です。こころが人はそれでいいです。改めて20年の職人人生を思いました。この仕事で人生で生きてきた... 10月1日の思った夜です。もちろん福岡でたまたまの友やスローもみんな旅立ちを祝って頂きました。一番うれしかったのは、みんな大親友の木村君が、男涙を流しみんなの別れを悲しんでくれたこと... そのこころ強い友としての絆を深めることができました。フランスでもそんな親友を色々作りたい！ そう心に決めてきました。

どんな大変なことでも受け入れ、それを乗り越えていくこと、これ以上大きく成長したいと思っています。自分を信じ、一步一步確実に前に進んでいきます。自分の心で声を聞かせること、挑戦のしつけ、自分の目標に向かっていきます。皆さん一緒にがんばります!!

行きます！ また知らない新しい世界を求めて、がんばります！

大西かおり